

マンション 災害に備えていますか

希薄な「ご近所」付き合い 気楽な反面リスクも

管理会社も被災 助け合い誰と

豪雨や地震などの災害が各地で相次いでいます。被災時にはご近所同士の助け合いも大切ですが、文字どおり「一つ屋根の下」に暮らすのがマンション。どんな特等やリスクがあり、どんな備えが必要なのでしょう。住人同士のつながりを強める取り組みも広がっています。

「うちのマンションは、災害まで行く必要があった。幸い、水島さんのマンションは半日後には復旧したものの、北海道内の360超のマンション管理組合が加入する、北海道マンション管理組合連合会副会長の水島能裕さん(71)は、振り返る。

北海道胆振地方で9月6日未明に発生した、最大震度7の地震では、道内のほぼ全域が停電した。水島さんが暮らす旭川市内の4階建てマンション(32世帯)では、停電に伴い断水が発生。地下タンクの水を各戸まで送る電動ポンプが動かなくなったからだ。管理組合は簡易トイレなどを確保しておらず、トイレを使いたい人は5、6と離れた施設

まで行く必要があった。幸い、水島さんのマンションは半日後には復旧したものの、北海道内の360超のマンション管理組合が加入する、北海道マンション管理組合連合会副会長の水島能裕さん(71)は、振り返る。

北海道胆振地方で9月6日未明に発生した、最大震度7の地震では、道内のほぼ全域が停電した。水島さんが暮らす旭川市内の4階建てマンション(32世帯)では、停電に伴い断水が発生。地下タンクの水を各戸まで送る電動ポンプが動かなくなったからだ。管理組合は簡易トイレなどを確保しておらず、トイレを使いたい人は5、6と離れた施設



災害時に備えてマンションで開かれた住民向け講習会。被災時のストレスを和らげるマナーも学んだ。9月、横浜市

マンションに必要な災害への備えは？川上さんへの取材などから作成



- 管理組合で備えておくべきこと
- ・マンホール設置型など仮設トイレ・簡易トイレの準備
 - ・リヤカー、ジャッキ、担架など各戸では準備できないものを用意
 - ・高齢者や障害のある人など特に助けが必要な人の名簿を事前に用意
 - ・高階層は移動や物資の運搬が困難に、可能なら一定階ごとに備蓄場所を確保
 - ・災害時に活動する防災組織の設置
 - ・年に数回は防災訓練を実施
- 各戸で備えておくべき主なもの(最低3日分を用意)
- 飲料水 (一人1日3ℓ)
 - 食料
 - 簡易トイレ
 - 常用薬
 - 軍手
 - 懐中電灯
 - カセットコンロ
 - ラジオ
 - 使い捨てカイロ

日常的な共用部分の管理や事務は、管理会社に任せきりにしている管理組合も多い。そのため、災害時何ともしてくれるだろうと思いがちだが、大手「大京アステジー」の担当者は「災害直後は管理会社も被災し、すぐに動けな

いざという時に備えて、防災対策やコミュニティづくりを諦めようとしているマンションもある。

要支援者いる住戸 事前に把握 防災訓練知り合い増やす場に

「可能性がある」。2016年の熊本地震の際は、同社が担当するマンションにスタッフが駆けつけるだけで数日かかった例もあった。「発生直後は、マンション内での助け合いが重要です」と話す。札幌市内にある、500世帯余りが住む大規模マンション(14階建て・全5棟)では、日頃の備えが生きた。地震直後から停電し、イン

ターホンも使えなくなった。しかし、管理組合は災害時のためにハンドマイクやリヤカーなどを備えており、各戸の住民が役割を分担する自主防災組織を作っていた。お年寄りなど支援が必要な約40人が暮らす住戸などの情報と、その支援にあたるサポーター約30人も登録されていた。

知っているも、個人情報保護もあり、支援が必要な人の有無などを把握できていなかった」と理事長の伊東教雄さん(68)は話す。

各戸に要支援者リストの提出を要請した結果、約60人が登録。安否を知らせるマグネットを全戸に配布して、災害時は玄関ドアに貼ってもらって確認しやすくした。また、せつかく水や食料、救急用品などを備えていても、保管場所を知る住民が以前はほとんどいなかったという。そこで、保管場所も記した防災マニュアルを新たに作って全戸配布し、管理人がいなくても使えるようにした。

理事長の伊東さんは、「マンションは『近所付き合いがないのがメリット』とも言われるが、それだけでは災害時は乗り切れないのでは。名前も分からなくても、顔だけで分かる関係が築いておけば、いざという時に互いに声をかけられるようになる」と期待する。

(有近隆史)